

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームサンライト
(ユニット名)	からくに棟
所在地 (県・市町村名)	霧島市牧園町高千穂3617-640
記入者名 (管理者)	西田 房子
記入日	平成 21 年 7 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	障害があっても一個人として尊重して本人が喜ぶサービスの提供ができるように考え、自分たちの理念を確認しながら、取り組んでいる。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼や会議の際、自分たちが理念に添った介護ができていかなど話し合いながら、毎日取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議の案内をして一緒に会議に参加してもらえるように工夫したりグループホーム便り、広報誌の中に理念を入れたりしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム近隣のかたとの交流があり、野菜の作り方やできた野菜を頂いたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には参加していないが、法人の主催するふれあい文化祭などで地域のかたとの交流や、地域の小学生との交流も大切にしている。運営推進会議に案内したりして、交流ができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	特に取り組んでいないので、今後の課題として、取り組む必要があるが、グループホームの案内見学はいつでもできるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	全職員で自己評価をしてもらい、職員会で課題について話し合ったり機会のあるごとに、管理者との話のなかで改善できるように工夫している。運営者には、職員会議録を提出している。外部からのゲストの意見を聞き自分たちで工夫して改善に取り組めるようにしている。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	運営推進会議には、利用者家族や地域代表、市町村、包括支援センター、交番、消防署員などの出席があり、行事報告や外部評価の結果報告などその都度、質問や意見をいただいている。		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	毎回、運営推進会議にも市町村の参加があり担当者にホームの問題や不安なことの相談もできている。ホームのパンフレット等も置かせてもらっていて地域の方へも理解してもらうようにしている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	管理者が研修に参加して、内部研修で分かりやすく説明したりしている。入居者の中でも、金銭管理を社会福祉協議会に委任しておられるかたもいたりして、学ぶ機会がある。外部の研修等にも参加するようにこころがけている。		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待に関しては、管理者、職員とも理解できていて、自分がされて嫌な事や言われて嫌な事は言わないなど、常に話し合っている。無理な介護を強いられたりする事がないように充分注意している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は本人、家族に説明し、重要事項説明書で理解していただくように心がけている。遠方のかたへの入居後の説明が不十分であり、理解もらえてない場合がある為今後の課題として取り組んでいきたい。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者が面会時にご家族との話が気兼ねなくできるように心がけ、職員とご家族とも話ができています。入居者の不満やご家族の不安はすぐに対応できるようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時にあわせての報告や、遠方のかたへは、郵送で行っている。月一回のホーム便りや、ご家族へのお手紙等で報告している。健康状態の急変時は随時電話で行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設けている。随時、面会時ご家族と会話や、運営推進会議の時に報告して意見を頂いたりしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>グループホーム独自の職員会議での意見や要望がある場合は会議録や伺い用紙にて上申している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>病院受診時や、行事等で職員数を増やしたり、全職員の協力を得て調整が出来ている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>それぞれの棟だけでなく、両方の入居者の様子や状態がわかるように職員が常に行き来している。全職員が顔なじみになれるように工夫している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は職員が勤務内で順番に参加できるようにしている。研修を受けた職員が、他の職員に講師となり内部の研修をおこなっている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの向上ができるように取り組んでいる。	始良、伊佐地区のグループホーム協会に所属して、研修や交流会に参加する機会を持ち、サービスの向上ができるように取り組んでいる。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰安旅行や、忘年会などの年行事や、座禅を組むことで精神の安定が図れるように指導したり、休暇が充分取れるように職員配置をしたりして取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議や常日ごろ、顔を合わしたりした時に職員に向けて、励ましの声掛けをしたり、資格を取ることが出来るように、している。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が一番困っている事を聞いたり、ご様子で感じたりして、話を良く聞けるように工夫をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、申し込みに来られた際は、初めにご家族が、ご本人に対してどのように思っているか、又何を困っておられるのか、話を聞くようにしている。利用されるまでご本人の状態を知ることが出来るように、工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族がご本人の気持ちを理解してグループホーム利用されるのか、ご本人の気持ちに沿ったサービス提供が出来るように心がけている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族と一緒に見学に来ていただき、お茶を飲んだりしながらホームの様子もみていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の食事の手伝いや、エプロンの日として入居者皆様が参加して食事を作る機会や、梅干し、らっきょうの下ごしらえなど、教えていただきながらつくるようしている。うまく作れたときは美味しく皆でいただいている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂きながら行事や、誕生会、運営推進会議などおこなっている。誕生会は個別であるため、当日ご家族も参加されている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の誕生日やご本人が淋しがったりご家族が気になるときはいつでも面会が出来るようにしている。又電話での連絡も気軽に出来るように努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや、年賀状でなじみのかたへ連絡したり、買い物支援や、ドライブなど入居者が過ごしていた場所に近い環境へ出かけていく。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やリビングでの過ごし方、又、気が合う同士で過ごしていけるように配慮したりして、お互いに支えあえるように、職員が工夫している。入居者自身でたてた目標がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院したり、退居されても、職員が見舞いに出かけたり、ご家族が遊びにいらして下さったりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の要望や今困っている事など日常の様子を言葉の中から把握できるように努めている。何でも気軽に話していただける工夫をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際はご家族より今までの暮らしについて話を伺うようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタル測定で全身状態の把握をして本人のペースで過ごしていただくようにしている。朝礼で夜間の様子等申し送りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時にご家族ご本人との話し合いで今、何が一番して欲しいことや要望をきき、計画に反映できるように努めている。職員も積極的に意見を聞き入れるようにしている。意見を総合してケアに活かしていけるようにしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者様の意見を朝礼で話し合い、要望がケアに活かせるようにしている。身体的に急な場合はご家族に、電話で報告して、主治医に相談したり受診したりしてご本人の要望が活かせるように、職員の意見も取り入れながら対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、個別に記入している。ご本人の様子が分かるように記録するように心がけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地内に病院や老人保健施設、があり身体状況に応じて病院受診や、認知状態の変化、要介護度で特養など入居者様にあった居場所の検討をご本人も含めご家族と話し合っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	理美容は地域へ出かけていく。ご本人がご希望するところに出かけている。警察は運営推進会議に参加していただき、帰宅要望の多い入居者様が行方不明になったときの対応等について意見を頂いたりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同じ敷地内に病院や老人保健施設、があり身体状況に応じて病院受診や、認知状態の変化、要介護度で特養など入居者様にあった居場所の検討をご本人も含めご家族と話し合っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同じ敷地内に病院や老人保健施設、があり身体状況に応じて病院受診や、認知状態の変化、要介護度で特養など入居者様にあった居場所の検討をご本人も含めご家族と話し合っている。包括支援センターも運営推進会議に参加していただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内の病院にて体調不良時の受診や定期的に内服処方時の受診と入居者、家族の希望により眼科、歯科、等の受診も行っている。皮膚科、遠方の病院の受診はご家族の協力も頂きながら支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	同敷地内の桜ヶ丘病院の精神科の専門の医師による診察にて不安な状態や不眠などの場合ご家族の付き添いや了解のもと診察していただいている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、又、同敷地内病院外来看護師や老人保健施設の看護師と日常的に相談できる環境にある。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は主治医、ご家族、相談員と連絡を取りながら、グループホームに退院できる状況であるか確認しながら、情報の交換を行っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に重度化した場合は入院しての治療やご本人の要介護度にあった居場所の検討をしていくことを話しているためそのつど、ご本人やご家族との話し合いをしている。同意書をいただいている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居契約時に重度化した場合は入院しての治療やご本人の要介護度にあった居場所の検討をしていくことを話しているためそのつど、ご本人やご家族との話し合いをしている。同意書をいただいている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供書や看護サマリーにより、ご本人の状況がよくわかるように情報の交換をしている。入居される前にホームに見学に来ていただき中の様子を知っていただくようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>理念にそって尊厳なる人間性の尊重、プライバシーの保護に関してもきちんと保護が出来るようにしてある。ホーム便りの写真に関しても入居の際、ご家族の了解をいただいている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご本人の意思でのレク参加や作業への参加など御本人に伺いながら無理強いのないようこころがけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ご本人の意思でのレク参加や作業への参加など御本人に伺いながら無理強いのないようこころがけている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の行きつけの理美容室に行かれて、自分の好まれる髪型や入浴の衣類を選ばれたり今日の着たい洋服の選択で楽しく出かけられるように努めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者と一緒にもやしの根きりをしてもらい小鉢や味噌汁の材料となっていること、季節の材料やご家族の差し入れのものを使い楽しんで食事が出来るように心がけている。味付けも喜んでいただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒やタバコ等吞まれたり吸われる方はいないが、ドリンクバーの日を決め(毎月5日、15日、25日)に、コーヒー、紅茶、など、その日に飲みたいものを注文することになっている。通常はお茶であるが、飲みたいときに飲んでいただけるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のある方は誘導してトイレにて気持ちよく出来るように排泄のパターンも理解している。頻尿や尿失禁が多い場合は排泄チェック表をつけ把握するようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外はいつでも入浴できるようになっている。ご本人が毎日入浴したい場合は入浴していただいている。入浴拒否があるときは時間を空けての声かけをしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠や不安時は話し相手になり、お茶や飲み物でゆっくりしていただき眠れるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のレク軽作業など、本人の得意なことが見出せるように、注意して参加していただいております。得意なことは継続して頂ける様支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族が殆ど管理しているが、近所のストアへ買い物に行くときは、なるべく、ご自分で支払いされるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良いときは、特に計画していなくても、近くを散歩できるようこころがけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日などに計画をたて、本人の希望する場所へ出かけられるよう支援していく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用の援助や近くのポストへの手紙を出しに行く際の援助などの支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎月のホーム便りにて行事等のお知らせをしており、面会時には居間や居室でゆっくりとお話できるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解し、危険のあるとき以外の身体拘束は行わず、身体拘束廃止委員会にて、本当に必要であるかの検討を行い、状態に合わせ見直し、検討をおこなっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中鍵をかけることはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、時々声かけを行いながら所在や様子の確認に努め安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者に危険があるものは、保管場所を決め入居者の目が届きにくい場所へ保管をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会があり、事故がおきた都度、話し合いをして事故防止に努めている。又法人内外の研修参加や自分たちで勉強会を行い知識を深めていく。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生法を全員、法人内の研修等で勉強しており又勉強会の際にマニュアルの見直しも図っていく。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回は消防署と連携での防災訓練を行い避難方法を身につけている。運営推進会議を通して地域の方々の協力が得られるように働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	下肢筋力の低下による転倒、むせ込みによる誤嚥性肺炎の可能性のある事など一人ひとりの状況で起こりうるリスクの説明を家族に行い話しあっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日2回のバイタルチェックを行っており、異常の見られるときは、情報の共有を行い病院受診をするなどして対応し、指示の内容検査の結果なども引継ぎ記録を確実にこなっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用について理解しており、服薬の支援症状の変化の確認・記録を行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く摂るよう声かけし、水やお茶以外でも水分が摂れるよう支援している。腹部のマッサージや食物繊維の多いものを摂取していただく等している。運動も歩行訓練や散歩・舞り八などで体を動かしていただけるよう取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを声かけにて促し、必要なときは介助を行っている。歯磨きしやすいよう洗面所に歯磨きセットを準備してある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士と連携を図っており、食事摂取、水分摂取の記録を行っている。又一人一人の状態に合わせ、おかゆ食、刻み食、ミキサー食などの支援をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルにより職員全員が感染予防に努めている。又玄関へ手指消毒液の設置を行い呼びかけにて、外部からの感染予防を行っている。また入居者一人ひとりの手洗い、うがいの声かけ誘導介助を行なっている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器乾燥機の使用、ハイター消毒により食器調理器具などの衛生管理に努めている。冷蔵庫も日にちを決め定期的に整理整頓・清掃をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	手作りの表札を作り、玄関近くには季節の花を植え、家族の方や近隣の方が気軽に出入りできるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しについてはロールスクリーンを使用し採光の調節を行っている。音については職員の声や足音・テレビの音量に注意している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファや個人個人の椅子がおいてあり、思い思いに過ごす事が出来るよう工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた持ち物を持ってきていただいております、一人一人過ごしやすいよう配置を行っている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気を行っており、温度調整は入居者に聞きながら調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく、廊下やトイレには手すりを設置しており、安全に移動・移乗できるようにしてある。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で得意なことを手伝っていただいている。職員は失敗してもさりげなく片付け、プライドを傷つけないよう注意している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節の花、野菜を植え手入れ水撒きなどを出来る範囲で手伝っていただいている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

霧島の自然に包まれた環境の中にグループホームがあり、少し足を伸ばせば四季折々の花や景色を觀賞することができます。同敷地内にホームの母体となっている社会福祉法人の老人保健施設、身体障害者施設や病院があります。いつでも相談が出来るようになっており、入居者やご家族が安心していただけるように連携を図っています。また2ヶ月に1回の運営推進会議にはご家族に多く参加していただき、地域包括支援センターのケアマネージャーや支所の福祉課長・地域の福祉有識者にも毎回参加していただいております。内容に応じて地区の消防署・派出所の署員・地区公民館の館長にも参加をしていただき、地域とのつながりを深めていけるよう努力しているところです。また、介護保険ポイント制度の導入によりボランティアの活用を行い地域交流につなげていきたいと考えています。